

第4回がん患者大集会

＜開催日程＞ 2008年11月30日(日)13:30～17:00

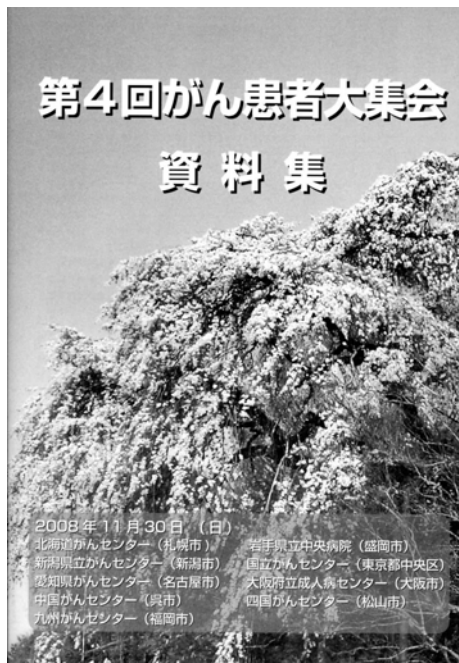
＜会場＞ 北海道がんセンター、岩手県立中央病院、新潟県立がんセンター、
国立がんセンター、愛知県がんセンター、大阪府立成人病センター、
中国がんセンター、四国がんセンター、九州がんセンター

厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業」Orange Balloon Project

オレンジバルーンプロジェクト紹介記事投稿、プレイベントでの普及活動

当日参加者総数：1500名、プレイベント参加者総数：2400名

＝パンフレット・資料集・記事＝



第4回がん患者大集会資料集



第4回がん患者大集会公式パンフレット

私たちは、緩和ケアを国民の皆さんに広く正しく知って頂くために、「オレンジバルーンプロジェクト」を企画しました。

何故、緩和ケアを皆さんに知って頂く必要があるか？
がんになると様々な苦痛（痛み、吐き気、倦怠感、食欲不振、腫部のほりなど）が出現しますが、多くの患者は症状を我慢してがんの治療だけを行おうとします。患者は、「痛みのおかげで医師を煩わせて治療が遅れるようなことがあってはならない」とか「痛みを取ってがんが良くなるわけではないから我慢できるなら我慢しよう」と考える傾向があります。これまで医師連も治療に専念するあまり痛みを緩和することに目が向いていなかったため、日本では緩和ケア（痛みなどの苦痛を緩和するための医療とケア）が外国に比べて遅れてしまったのです。緩和ケアは、がんの治療を阻害するどころかむしろ、より快適な状態で治療を受けることができますので、実は生存期間も長くなるということをご存じでしょうか。また、医療用麻薬はいろいろな工夫がされてあり、慢性的な痛みを持った患者では特殊な脳内物質の働きがあって、中毒にはならないことがわかっています。
安心して国民の皆さんに緩和ケアを受けて頂くために、私たちは、オレンジの風船を目印にして、緩和ケアの正しい知識を広めることを計画（オレンジバルーンプロジェクト）しています。

オレンジバルーンには次のような思いが込められています。
①暖かい色であるオレンジは、すべての苦痛症状をほんわりとやわらげたいという思いがこもっています。
②バルーンに描いた顔には、緩和のための医療やケアの技術を駆使してバルーンに描かれたような表情を患者さんと一緒に作っていきたいという思いがこめられています。
③メッセージには緩和ケアががんの治療を支えるもう一つの大切な医療であることを正しく理解してもらいたいという思いがこめられています。

オレンジバルーンプロジェクトでは、以下のようなことを行います
①緩和ケアのイメージを改善する：緩和ケアを広く正しく理解して頂くために、緩和ケアの肯定的なイメージを広める。人々が痛みを我慢せず緩和ケアをやってみようという気持ちになる。緩和ケアを受けることはそんなに難しいことではなく、いつでも言い出せるし、どこでも受けることができることを知ってもらう。
②緩和ケア推進運動自体を広く知らせる：緩和ケアを日本の隅々まで十分広げて、国民が安心してがん治療や緩和ケアを受けられるように国や専門家が努力していることを知ってもらう。
③Web サイトからの情報発信によって緩和ケア関連の資料へのアクセスを可能にする：緩和ケアに関する基本的な情報を提供するだけでなく、さらに情報がほしい方が緩和ケア関連の主な資料を手に入れることができるように、緩和ケアに関連したサイトへの案内を行います。

Web サイト 緩和ケア.net (<http://www.kanwacare.net/>)

日本緩和医療学会 平成20年度厚生労働省委託 緩和ケア普及啓発事業 作業部会長
内布 敦子

32

資料集掲載記事 (P. 32)